

2月月例研修会・報告

古い歴史と文化の香る

安堵町と廣瀬神社を訪ねて

青木 幸子

2月11日、降雨確率50/30、最高気温7℃、テレビ画面は雲と雪だるまのマークばかり。こんなどんよりした寒い日に、皆さん集まってくださるだろうか？心配しながらJR法隆寺駅に着くと、すでに多くの方が集まっておられた。9:30には28名全員集合、ホッとする。

3班に分かれて安堵町の観光ボランティアガイドの方と出発する。早速レンガの跡が残る「天理軽便鉄道」の説明が始まる。天理教信者を運ぶ目的で作られ、大正4年から6年間、新法隆寺駅から丹波市駅（天理駅）間を走っていたという。



のどかな田園風景の中、鉄道跡の細い道をしばらく歩く。聖徳太子が膳妃と住まっていたという住居跡に着く。



その横に在原業平の有名な和歌「ちはやふる……」の歌碑が建つ

上宮遺跡公園がある。平城宮と同じ文様の瓦や井戸跡などが見つかり、称徳天皇が行幸した際に宿泊した飽波宮ではないかといわれている。遠くに「調子丸古墳」「黒駒古墳」が見える。少し雪がちらつきだしたがホコリ程度で傘もいらない。在原業平も河内の姫のもとへ通ったという古道を歩く。誰かが「どれくらい遠いんやろ～」と。

続いて善照寺へ。本堂の前に太い根がむき出しになって生えている「富生の松」と呼ばれる、樹齢約250~260年の巨大な松がある。いわゆる「根上がりの松」で「値上がり」に通じ縁起がよいとお参りする人も……。



太子道沿いにある広峰神社へ。ここは聖徳太子の飽波葦垣宮（あくなみあしがきのみや）跡で元飽波神社があった所と伝えられている。さ

らに太子道をたどり飽波神社へ。鳥居に掲げられた「安久波社」の額は富本憲吉氏の筆によるのか。ここに聖徳太子が腰掛けられたという大きな石がある。以前歴史文研修会で訪れた時に、故川井代表が座って写真を撮られた懐かしい場所だ。今はとても似つかないかかしが座っている。



安堵町歴史民俗資料館へ。この建物は、代々庄屋などの村役を勤めた今村邸を安堵町が譲り受け修復、改装したとある。伝統産業の「灯心ひき」や天理軽便鉄道の模型、昔の道具など展示されている。極楽寺へ寄ってからお待ちかねの「うぶすなの郷 TOMIMOTO」へ。

暖かい部屋はなによりのごちそう。ホッとひと息ついて、おいしいランチをいただきしばし歓談する。体もお腹



も温まりいよいよ「御田植祭」の廣瀬神社へ出発。小雨が降り出したがすぐに止む。あちらこちらに満開の紅梅白梅が灰色の景色に色を添えて美しい。大和川を渡り河合町の廣瀬神社までひたすら歩く。

祭りは午前の「殿上の儀」と午後の「庭上の儀」に分かれているが、午後の庭上の儀（砂かけ祭り）に参加する。牛で田を鋤く静かな神事の後いきなり砂が飛ぶ。想像以上に遠くまで砂が飛び交い、ほとんどの参加者はかけられたと思う。砂かけが激しいほど豊作になるとのことで、今年のならやまの収穫にご期待ください。



安堵町はのどかな田園風景の中に古い歴史があり、伝統文化を守る人々がいる興味深い町でした。